

H26 年度事業

女性オリエンテーリング活性化調査事業

報告書

本調査活動の主旨

H26年の全日本リレーでは女子シニアクラスの出場は2チームだけでした。全国集めても2チームの参加というのは、今後の普及や競技力向上、さらには社会的アピール力にも課題が出るのではないかと危惧し、女性のオリエンテーリングへの参加・活性化は愛知県協会でも重要課題のひとつと捉えています。

大学クラブの活動のおかげで、学生時代には多くの女性がオリエンテーリングに取り組みますが、その後続ける女性は大きく減っていく傾向にあります。就職したり結婚すれば自然と離れて行ってしまふ、という考え方もなくはないですが、一方、名古屋女子マラソンでは多くの女性ランナーが参加し、また子供が生まれても、ママさんバレーで活動する多くの女性がいることも事実です。愛知県協会が主催する三河高原トレイルランニング大会でも、女性の最多年齢層は40代です。

オリエンテーリングに女性が参加しにくい何らかの理由があるのであれば、少しでもそれを取り除くような組織的な努力ができないだろうか？そう考えて、今回の調査活動を行っています。女性とオリエンテーリングの関係を考えることは、単に女性選手の少なさの問題に留まらず、ここからオリエンテーリングが抱える問題点が見えてくるのではないかと思います。

以上の観点から H26 年度は以下2つの活動を行いました。

(1)女性オリエンテーリング活性化に関するアンケート

上記主旨にもとづいた設問のアンケート調査を県内のみならず、メーリングリストで全国に呼びかけ実施しました。アンケートは無記名の Web 方式で行い、男女とも対象としました。

(2)座談会

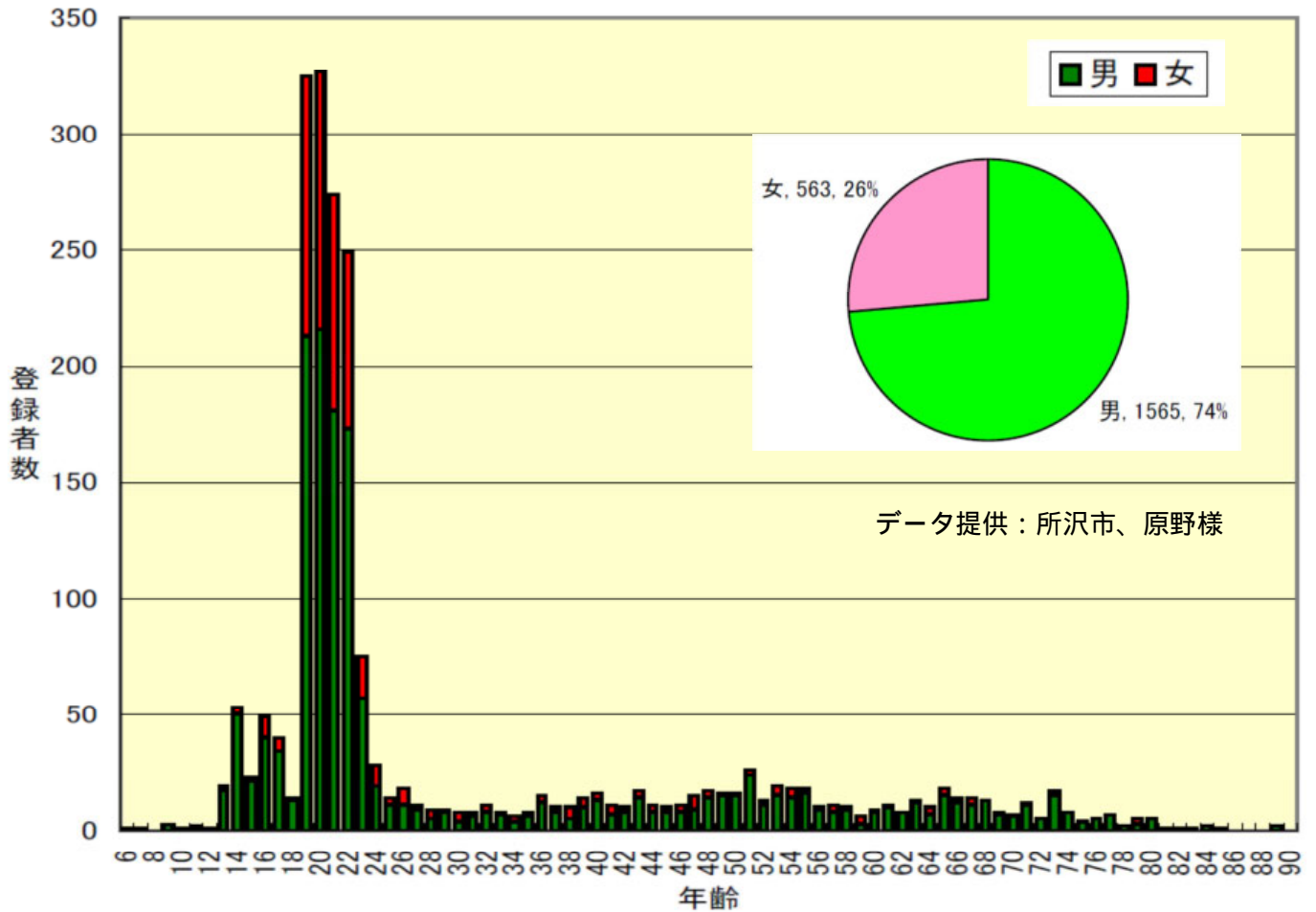
アンケート結果を見ての感想や、オリエンテーリングに関わる女性の生の声をざっくばらんに伺う機会として座談会を開催。県内の女性オリエンティア10名に参加してもらいました。

コーディネータとして JOA 理事で女性オリエンテーリングの問題を検討されている大里氏にお願いしました。

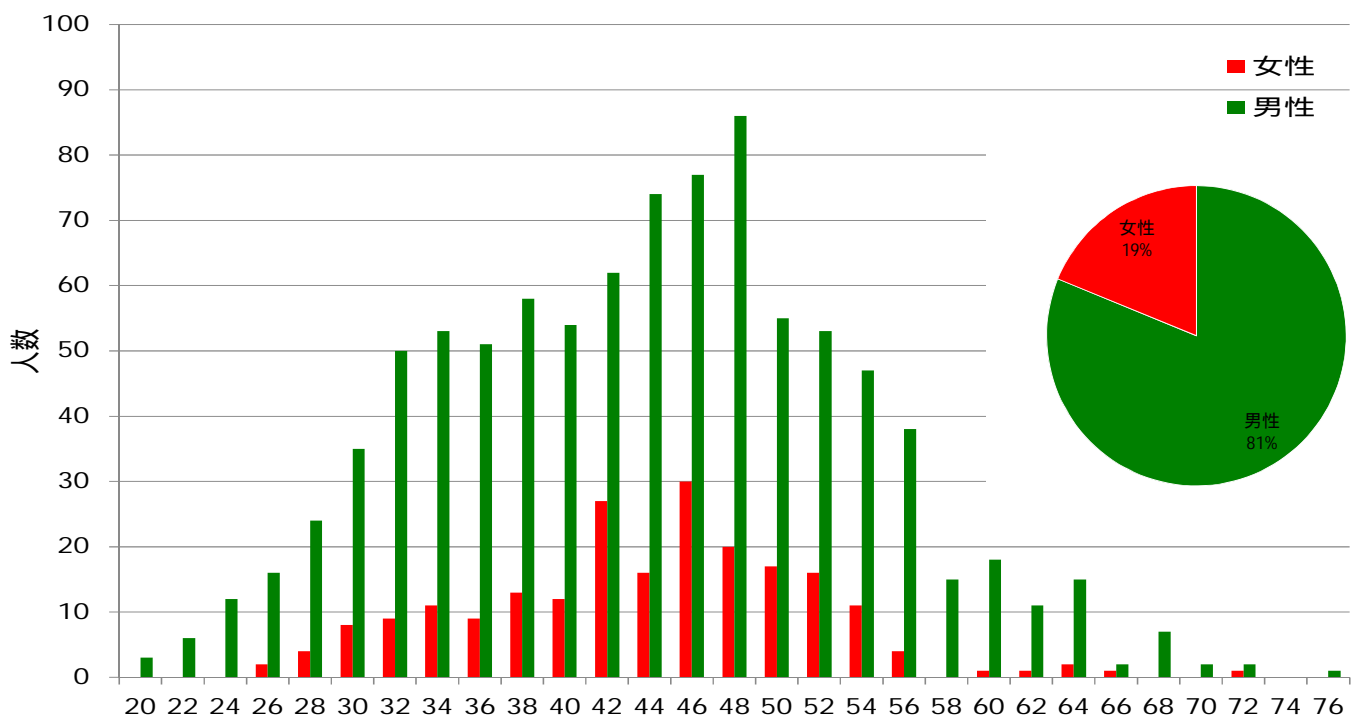
(特非)愛知県オリエンテーリング協会

0 . 参考資料：オリエンテーリングにおける男女比・年齢構成の現状

JOA の競技登録者の分布



トレイルランナーの男女比・年齢構成(三河高原トレイルランニング大会参加者年齢構成2014)



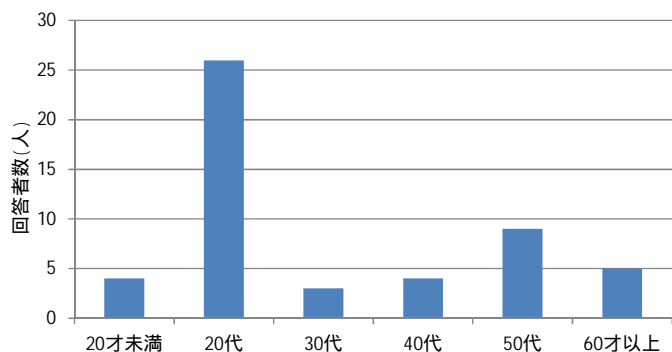
(注) 三河高原トレイルランはロードランナーの参加比率が高いと思われます。参加資格は18才以上

女性オリエンテリング活性化に関するアンケート調査結果

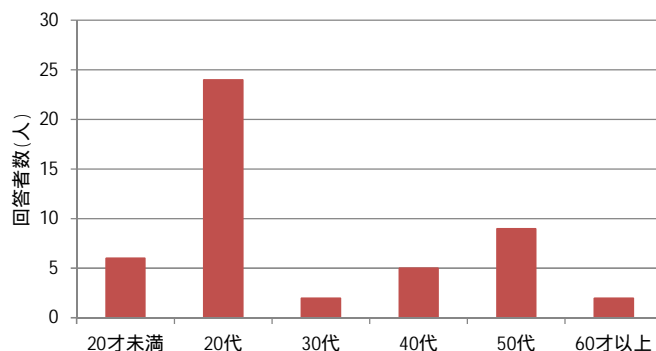
．アンケート回答者属性（問1）

アンケートを回答していただいた方の属性です。回答をいただいた方の状況ですので、オリエンティア関係者全体の状況を必ずしも表していない点にご留意ください。

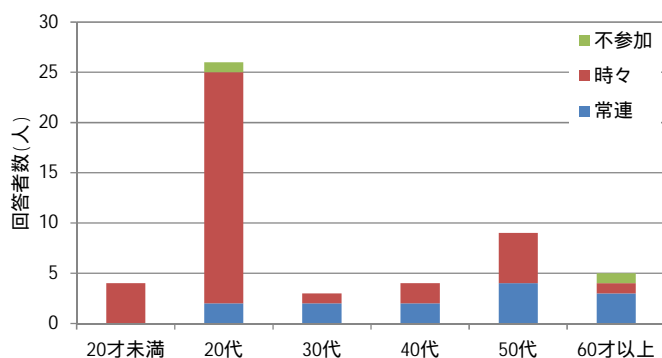
回答者年齢分布(男性)



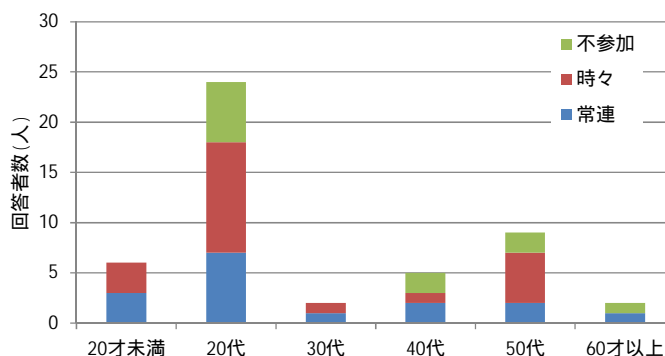
回答者年齢分布(女性)



回答者大会参加頻度(男性)



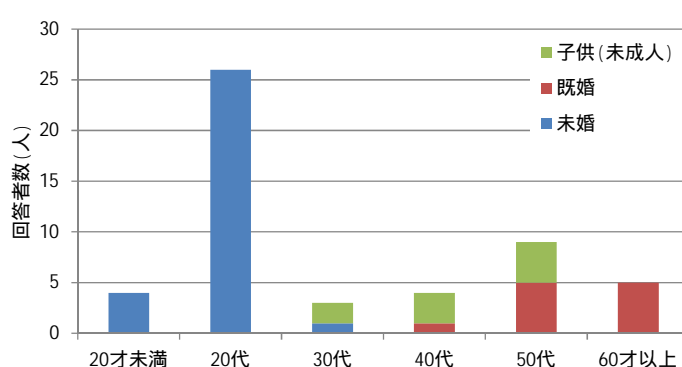
回答者大会参加頻度(女性)



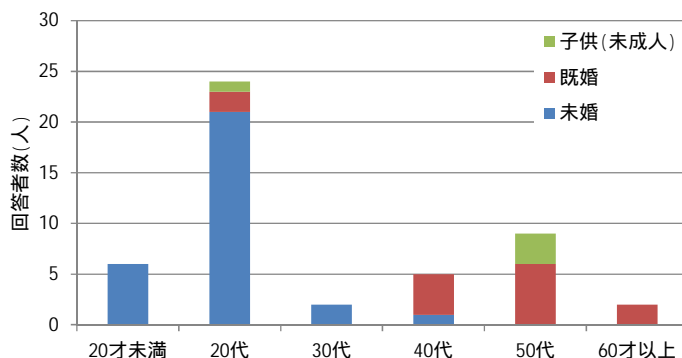
(注) アンケートで「その他」の回答についてはその内容に応じて、不参加または時々でカウントしました。

「常連」= 年6回程度以上の大会参加、「時々」= 年数回の大会参加、「不参加」= 大会に参加していないor参加しなくなった。

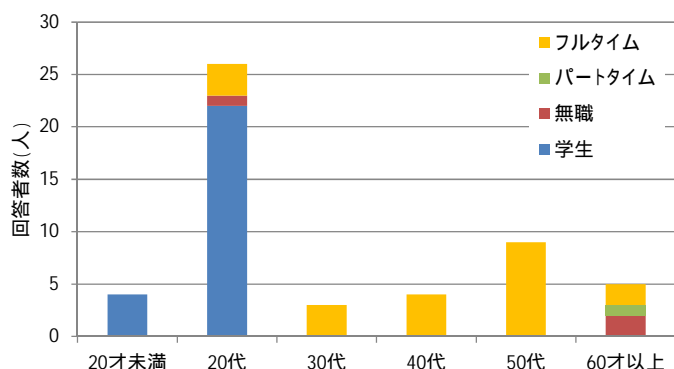
回答者家族構成(男性)



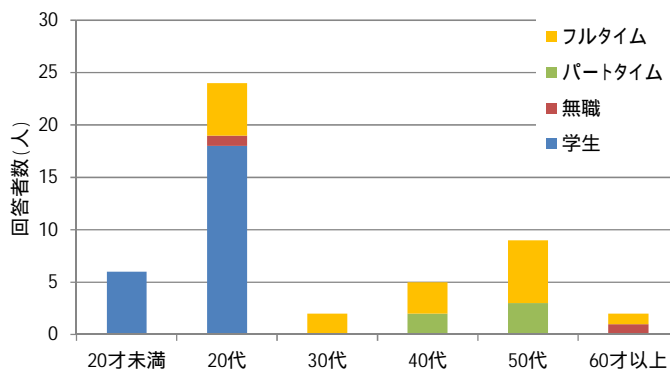
回答者家族構成(女性)



回答者職業(男性)

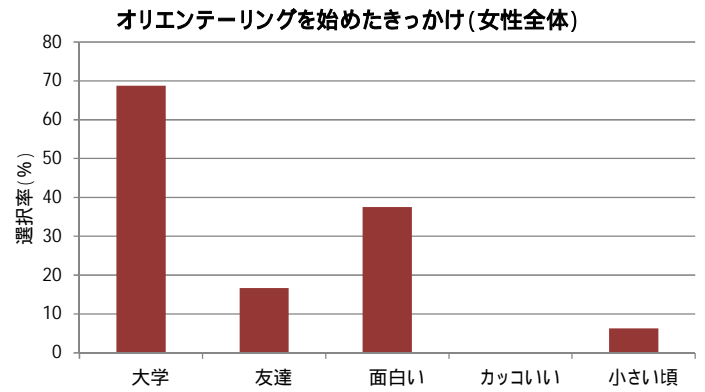
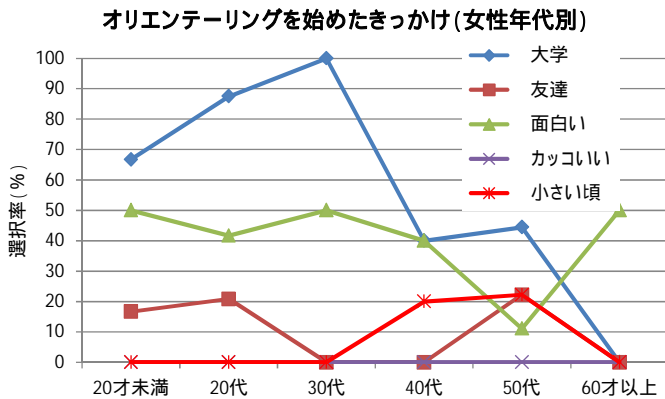


回答者職業(女性)

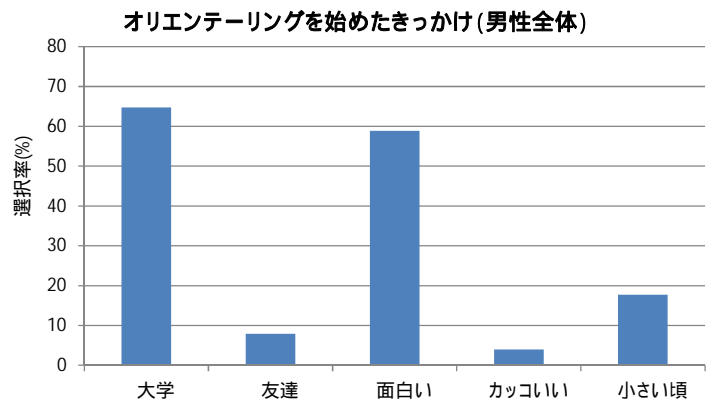
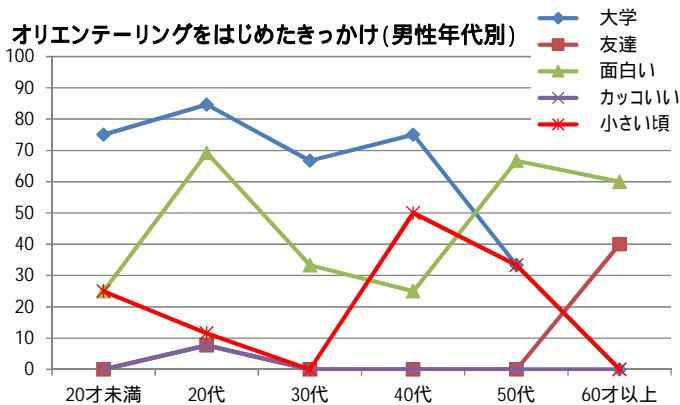


．あなたがオリエンテーリングを始めたきっかけは何ですか？（問２）

【女性】



【男性】



(注) 上記グラフ中の各項目のアンケート選択枝表現は以下のとおり。複数選択のため合計しても100%になりません。

「大学」=大学のクラブへ入部したので「友達」=友達に誘われたので「面白い」=面白そうなスポーツと思ったので「カッコいい」=カッコいいスポーツと思ったので「小さい頃」=小さい頃(小中学生のころ)やったことがあったので

その他自由記載

【女性】

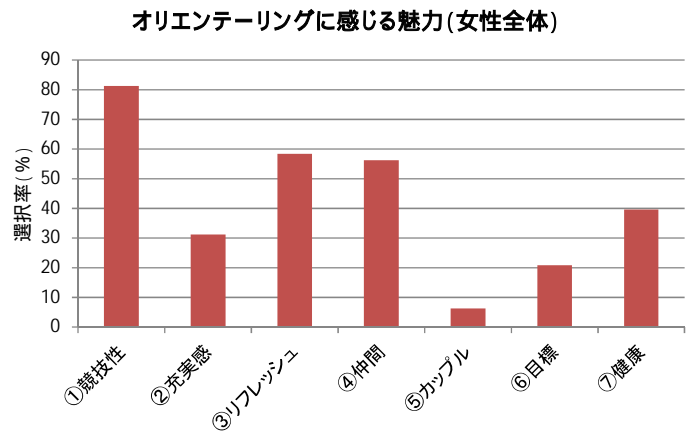
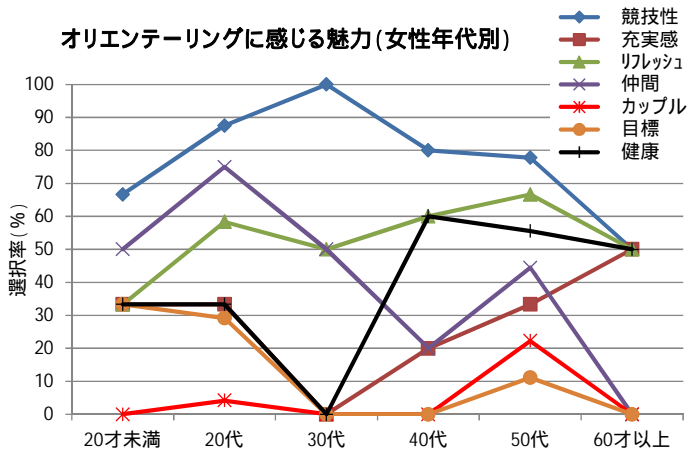
- ・アウトドアが好き.持久力が元々あったから始めると伸びて楽しい(20才未満)
- ・親に毎回会場に連れて行かれ、自然に。(20才未満)
- ・地元が田舎で、小さい頃山の麓らへんで遊ぶのが好きだった。(20代)
- ・親がオリエンテーリング競技者だったので、幼い頃から大会へ参加した(20代)
- ・社会人になってから地図読みの講習会に参加しオリエンテーリングのクラブに入会した(今は退会しています)(40代)
- ・兄がボーイスカウトで楽しそうにやっているのを見ていた。高校に同好会があって、高校OBの大学生の先輩が大会に誘ってくれた。(50代)
- ・大学の専攻科目(地学)に役立つそうだったので(50代)

(男性)

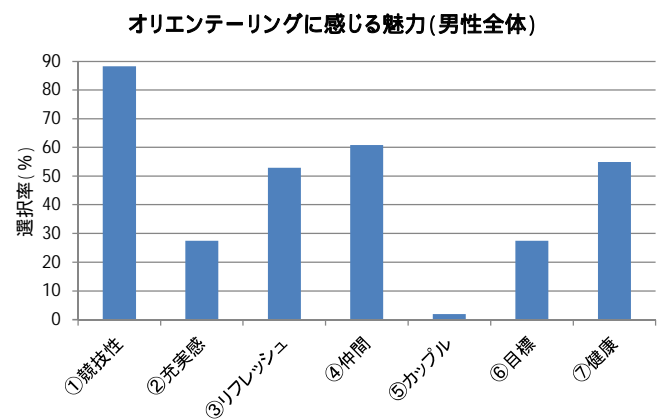
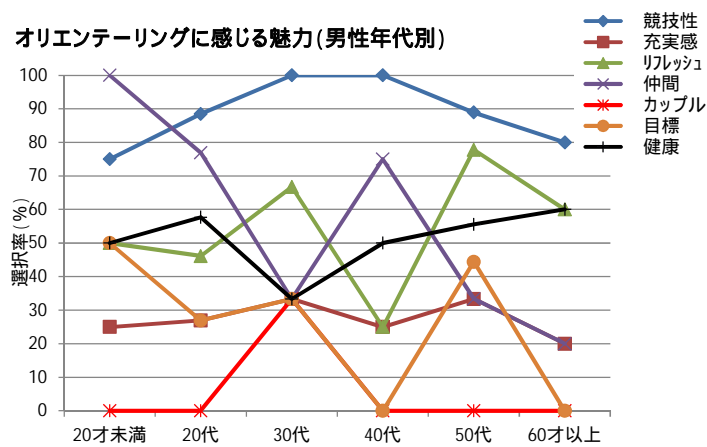
- ・小学4年生の時に地元の市民大会に同級生と5人チームで参加した(30代)
- ・ロードが飽きて、山好きだったので、トレイルランニングに入り、地図読みが面白そうだったのでロゲイニングに入り、先日OMMにも参加しました。(40代)
- ・当初はオリエンテーリングに興味を持てず、幽霊会員状態でしたが、第1回の東日本OL大会のH35Cでかなり間違えたのに優勝してしまい、それからハマりました。(60才以上)
 < 編者注: "H35C"は男子35才以上初級者クラスの当時のクラス名 >
- ・初めて参加した大会のNクラスで優勝し、OLにはまってしまった。(60才以上)
- ・職場の研修(60才以上)
- ・OLコンパスをメガネ屋のショウケースで見たこと。どうやって使うのか歩き回ってオリエンテーリングに出会った。(60才以上)

．あなたがオリエンテーリングに感じている魅力は何ですか？（問3）

【女性】



【男性】



(注)

上記グラフ中の各項目のアンケート選択枝表現は以下のとおり。複数選択のため合計しても100%になりません。

「競技性」=オリエンテーリングの競技としての面白さ 「充実感」=苦しいレースを終えた後に充実感を感じるから 「リフレッシュ」=自然の中に身をよけてリフレッシュできる感じがするから 「仲間」=友達あるいはクラブ仲間と一緒にわいわいできるから 「カップル」=夫婦あるいはカップルで参加できるから 「目標」=個人あるいはクラブとしての目標を達成したいから 「健康」=体力増強、健康づくりできるから
なお、選択枝には「特になし」もありましたが、選択されなかったためグラフには含めていません。

その他自由記載

【女性】

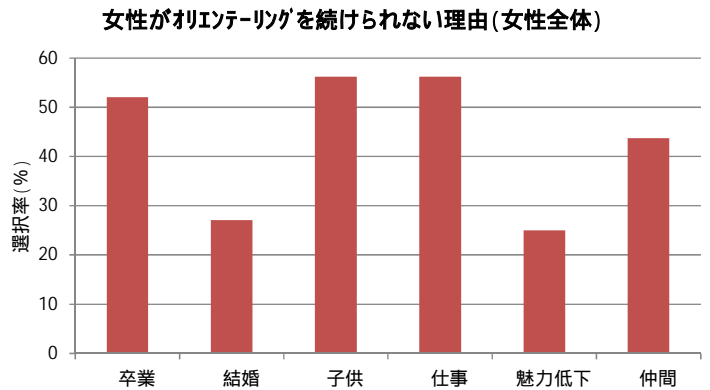
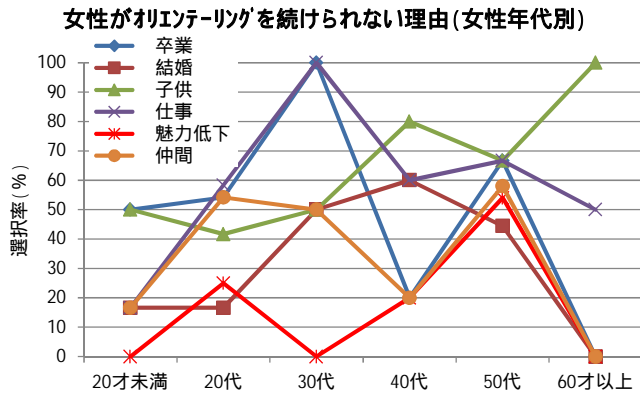
- ・都会は土がない。(20代)
- ・考えてみると、学生時代から志向はあまり変わっていません。インカレという最大の目標がなくなってもOLが続けられるよう、「達成意欲」以外の魅力をどれだけ伝えられるかだと思いました。(40代)
- ・コントロールを探す楽しさ(50代)

(男性)

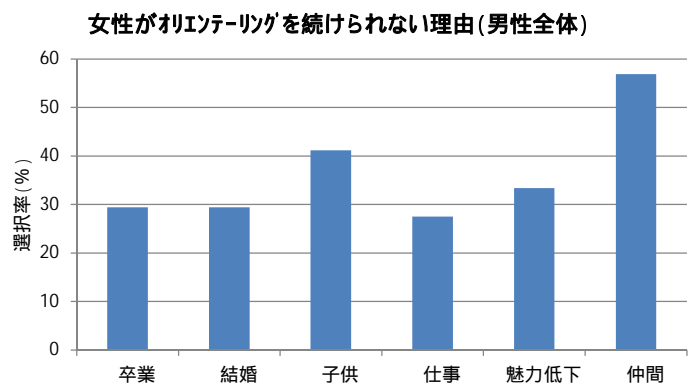
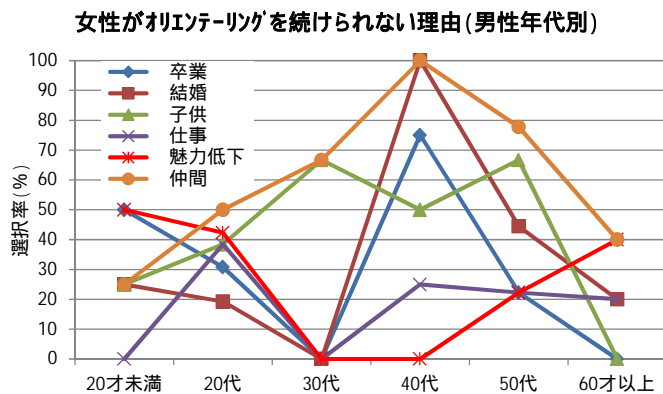
- ・オリエンテーリングとともに成長してきたから(20代)
- ・いろいろな意味での「勉強」。(30代)
- ・行った事の無い場所に行ける(海外も含む)(30代)
- ・ルートファインディングで自分の実力を付けたい(30代)
- ・未知の場所を訪れることができるから(50代)
- ・自然と一体になれる。森に入るとなんとなく、帰ってきた感がある。(50代)
- ・コースを組んだり、地図を作ったりする、運営側での楽しさ(50代)
- ・自分たちで運営し、参加して下さった人たちが楽しそうにしているのを見ると幸せになれる。(60才以上)
- ・長くやってもミスはなくならなく奥行きが深い。(60才以上)

・女性がオリエンテーリングを続けられないとしたらどんな場合ですか？（問4）
（あるいは、オリエンテーリングから遠ざかってしまった理由は何ですか）

【女性】



【男性】



(注) 上記グラフ中の各項目のアンケート選択枝表現は以下のとおり。複数選択のため合計しても100%になりません。

「卒業」= 卒業して就職したら。「結婚」= 結婚したら。「子供」= 子供ができれば。「仕事」= 仕事が忙しくなったら。「魅力」= オリエンテーリングそのものに魅力を感じなくなったら。「仲間」= 一緒にやれる仲間、家族がいなくなったら。

その他自由記載

【女性】

- ・続けられない、というより配偶者の趣味等で続けるのを辞めた人が多い気がする。(20代・無職子供・不参加)
- ・体力がいるスポーツだし、大会が開かれるのは基本的に遠いところだから。あと、会場で話せる人がいなかったら淋しい。(20代・学生・時々)
- ・学生だったら、親とかに止められることが多い(20代・学生・時々)
- ・オリエンティアと結婚しないことで理解が得られにくいのでは(20代・学生・常連)
- ・結婚して、土日に用事が入ることが多くなった。主人もオリエンティアなので、やりたいねーとは話しているが後回しになってしまう。大学時代の友人がほとんど続けていないので、会場に知り合いが少なくて、寂しい。(20代・フル・既婚・不参加)
- ・競技環境が悪いところに引っ越したから。(20代・学生・不参加)
- ・大会に参加する頻度が少なくなり、地図読みに自信がない・オリエンテーリングそのものには興味はあるが、子供がうまれてから、わざわざ遠出をして出してみたいと思える大会があまりない。(ロゲイニングやトレイルランの大会は遠出をしてでも出してみたいと思える)(40代・パート子供・常連)
- ・卒業後、オリエンテーリングのない県に行き、大会に参加しなくなりました。その後他県クラブに所属し、年に数回参加していました。結婚し、子供がいてとなると、また参加しなくなりました。(40代・パート子供・不参加)
- ・自由時間が減ったり、自分の時間の使い方を相手に気を使わなければいけない時に、手軽には出来ない。その際に(少々他を犠牲にしても頑張ろうと思う)仲間や競技としての魅力が必要。(50代・フル子供・常連)
- ・近くで参加出来る大会が少ない(50代・フル既婚・不参加)
- ・日曜日が休みでない。帰宅後の家事従事(50代・フル既婚・不参加)
- ・怪我、病気(50代・パート既婚・常連)(50代・フル子供・常連)
- ・結婚が理由の場合は、娑婆の人が旦那の時ですね。(50代・フル子供・時々)

- ・上記の回答は、女性に限ったものではないと思いますが。女性限定では、子供ができたら・・・がありますが、子供ができて、オリエンテーリングに魅力があれば、いつか離れたとしても戻ってくるものと思います。(50代・パート既婚・時々)

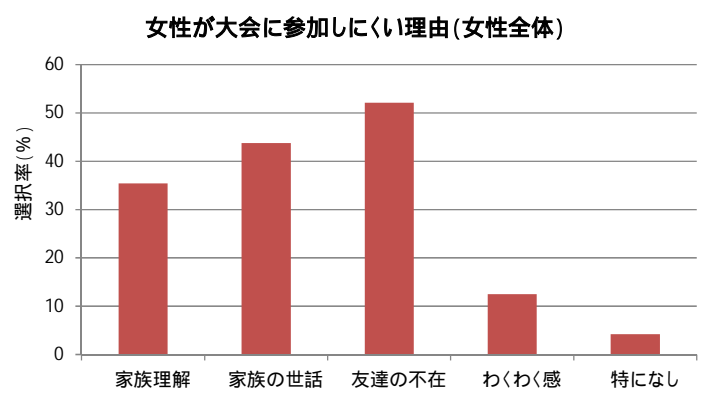
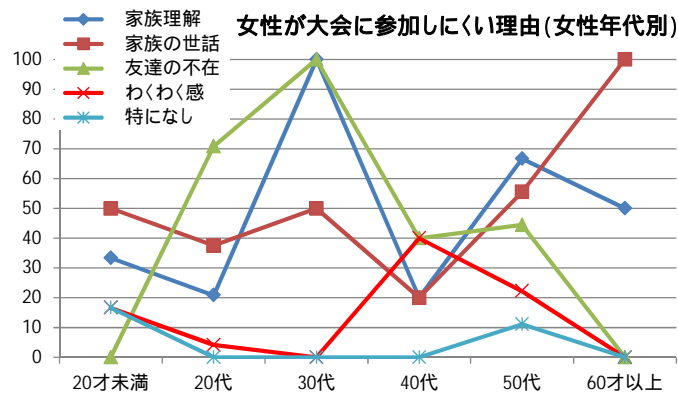
【男性】

- ・虫が苦手、金銭面など。体に傷ができてしまうのを嫌ってやめることも考えられる。(20才未満・学生・時々)
- ・わざわざオリエンテーリングを続ける理由、目標となる大会がないから。他に面白いことはいくらでもある。(20代・フル・時々)
- ・女子学生がオリエンテーリングを生涯スポーツと捉えていない。(50代・フル既婚・時々)
- ・女性は男性以上に仲間と一緒に楽しむという傾向が強いと思います。周りに一緒にやる人がいないと離れてしまうのではないかと思います。(50代・フル既婚・時々)
- ・家事や育児など女性特有のものもあるが、総じて上記理由のどれに対してもOLの優先順位が下がったためかな？(50代・フル子供・常連)
- ・「泥だらけ、傷だらけ、クモの巣まみれになっても平気」でいられなくなったら、では？トレランとの比較で考えると、「傷だらけ、クモの巣まみれ」が敬遠される理由では？(50代・フル子供・常連)
- ・オリエンテーリングは体力と地図読みの両方が必要なので、就職や結婚などにより、一旦オリエンテーリングから離れてしまうと、戻るのが難しいと思います。ランニング大会なら少しジョギングをするだけで参加する気が出てくるかもしれませんが、地図読みが苦手な人(特に女性には多いかも)は復帰は相当な外力が無いと・・・！と4ヶ月ほどオリエンテーリングから離れた自分は思いました。(50代・フル子供・時々)
- ・妻によれば、景色をゆっくりと楽しみたいのに、あくせくとただ走るだけのOLには魅力を感じないとのことです(60才以上・無職既婚・時々)
- ・地域クラブと職場クラブの衰退が一番の理由。地域&職場クラブの活性化以外にオリエンテーリングの将来はない。(60才以上・無職既婚・時々)
- ・仕事や結婚、女性は出産、育児が大きな負担となりOLに参加することができなくなる。一度遠ざかると身近にランニングなどのスポーツもあり仲間も多い。(60才以上・パート既婚・時々)

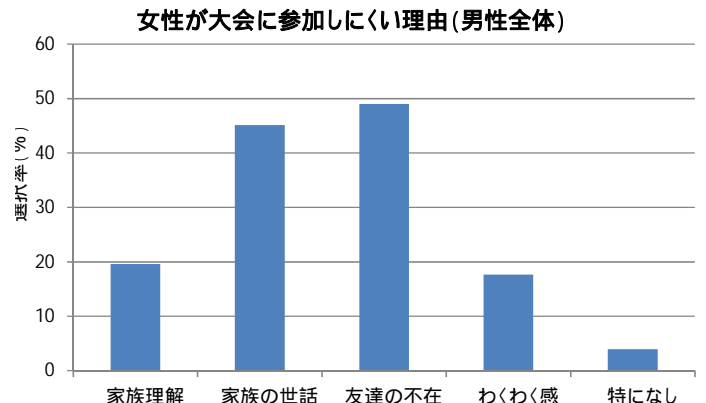
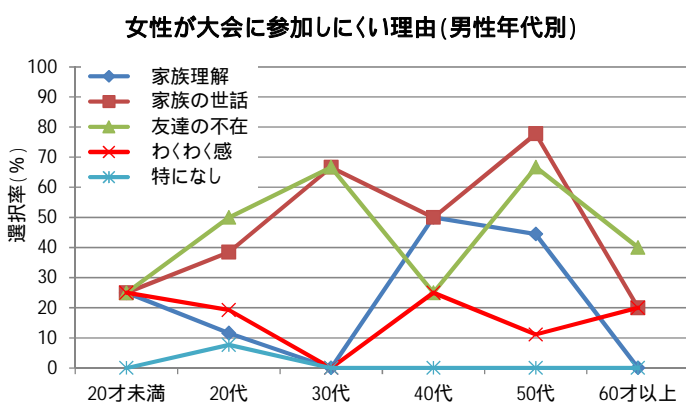
(注) ()内は回答者の属性を表します。フル=フルタイム、パート=パートタイム、子供=未成年の子供有、時々=年数回の大会参加、常連=年6回程度以上の大会参加、不参加=大会に参加していないor参加しなくなった

・女性が大会に参加しにくいのはなぜ？(問5)

【女性】



【男性】



(注)上記グラフ中の各項目のアンケート選択枝表現は以下のとおり。複数選択のため合計しても100%になりません。

「家族理解」= 家族の理解が得られず気軽に出かけられない。「家族の世話」= 行きたくても、子供や配偶者、親などの世話などで疲れている。「友達の不在」= 一緒に行ってもらえる友達、仲間、異性などがいない。「わくわく感」= 大会へ行っても殺風景でワクワクしない。

その他自由記載

【女性】

- ・大会のアクセスが悪い。競技スポーツであるから（気軽に楽しむものではない）（20才未満・学生・常連）
- ・子供がいると配偶者（または親近者）がいないと競技に参加できない点。授乳やオムツ替え等の配慮がまだ少ない点。女性だけではないと思うが、大会に参加するのにそれなりの移動時間がかかるため、車持ちでない点。気軽にいけない点。（20代・無職子供・不参加）
- ・お金がかかる（20代・学生・常連）
- ・まだ競技に不安を感じる人が多いと思う。（20代・学生・常連）
- ・やぶい。ケガができる（20代・学生・常連）
- ・数人は、続けていて、大会に出る気がある友達はいても、お互いの予定と大会開催日が合わない。代わりにオリエン仲間と、登山に行くことが増えた。（20代・フル既婚・不参加）
- ・仕事の忙しさ。環境（関東東海関西はすぐオリエンターリングできる環境にあるがその他の地域はむずかしい、地域クラブなども少ない）（20代・フル未婚・不参加）
- ・参加しにくいとは思っていない（40代・フル子供・常連）
- ・女性の場合、結婚 出産などの時期は人によってばらばらで、それまで一緒に参加していた仲間と一緒になかなか行けなくなることも大きいように思う。マラソンはどこでも練習できるし（練習は自分1人でも）、ママさんバレーなどは練習場所が学校など身近にあり、仲間も身近にいる。オリエンターリングは練習が気軽にできる環境が身近にないことも要因では？と思います。特に競技に取り組んでいた女子であれば、ブランクがあり練習できないままに大会に参加するのは抵抗があるのでは？とも思います。ただロゲイニングなどは盛況なので、情報の出し方など取り組み方次第で変わるのでは、と思います。（40代・パート子供・常連）
- ・子供の行事とかぶると、そちらを優先せざるを得ないです。習い事、PTA、地域の集まりなど。（40代・パート子供・不参加）
- ・自分の余暇よりも子供の都合（部活や塾）を優先させてしまうから。（40代・フル子供・不参加）
- ・交通手段（40代・フル未婚・時々）
- ・西日本では参加できる大会が圧倒的に少ない。交通費+宿泊費を負担して行くとなると、ハードルが高くなる。帰ってからも、家族（当時は、自分と夫、子ども二人のシューズ・ウェアをその日のうちに片付けると、深夜までかかった。自分が好きでしているとわかっていても、片付けの最中、子どもの面倒をみてもらっているとわかっていても、割り切れない思いをしていた。（50代・フル既婚・不参加）
- ・近場が少ない。交通機関の不便さ（50代・フル既婚・不参加）
- ・たとえば家族と一緒に出たとしても、競技で汚れた洗濯物や帰宅が遅くなったときの食事などの家事負担は主に女性が引き受けることになる。協力がなくて疲れるね。（50代・フル子供・時々）
- ・自分自身、大学を卒業し大会での居場所がなくなったとき、オリエンターリング自体には魅力を感じつつも、大会参加がなくなった時期がありました。（50代・パート既婚・時々）

【男性】

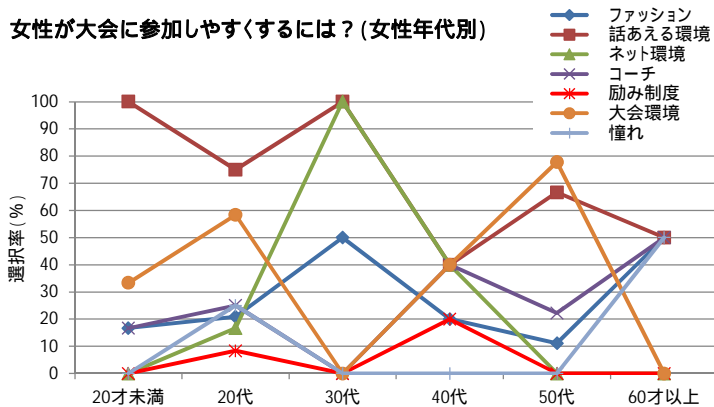
- ・金銭面。オリエンターリング以外のもの（洋服など）にお金をより使うなどが考えられるのでは。また更衣室のキャパシティの狭さ。（20才未満・学生・時々）
- ・託児所がない（20代・学生・時々）
- ・男性オリエンティアの方が圧倒的に多いと思ったので、相対的に女性が少なく見えるような気がします（20代・学生・常連）
- ・一部大会でですが更衣の面で。それ以外は性差はないかと。（20代・学生・不参加）
- ・「疲れている」というより、子供の生活リズムに合わせる必要があるため、時間や行動範囲に制約が生じる。（30代・フル子供・常連）
- ・子ども連れでも参加できる方法が「グループクラス」しか無いから（30代・フル未婚・常連）
- ・キレイでない。汚れる。（40代・フル既婚・時々）
- ・そもそも女性は地図読みが苦手。まずは面白みを伝えないと参加者は増えない（40代・フル子供・常連）
- ・普段のトレーニング習慣がない。（50代・フル既婚・時々）
- ・競技そのものに、「傷だらけ、クモの巣まみれ」のような望まない部分があるから。（50代・フル子供・常連）
- ・女性参加者の絶対数が少ないので仕方ない面もありますが、クラス分けが大雑把。コースは同じでもよいから（60才以上・無職既婚・時々）

- ・大学生が社会人になるとオリエンテーリングを止めてしまうのは、周りに仲間がいないため。地域クラブや職場クラブが身近にあれば続けられる。(60才以上・無職既婚・時々)
- ・本人の気持ち次第ではないのかな。他人のせいにするのはおかしい。(60才以上・フル既婚・常連)
- ・オリエンテーリング自体について周知理解されていない(男性・女性・子供)のでオリエンテーリングの面白さがわかっていないと思われる。小・中学校での体験を増やすと良い(60才以上・無職既婚・不参加)

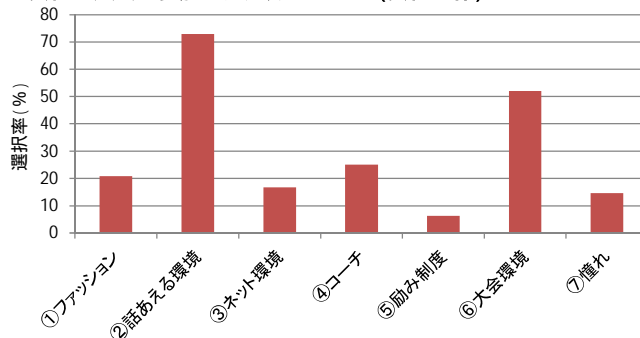
・女性が大会に参加したりトレーニングしやすくするためには何が必要か？(問6)

【女性】

女性が大会に参加しやすくするには？(女性年代別)

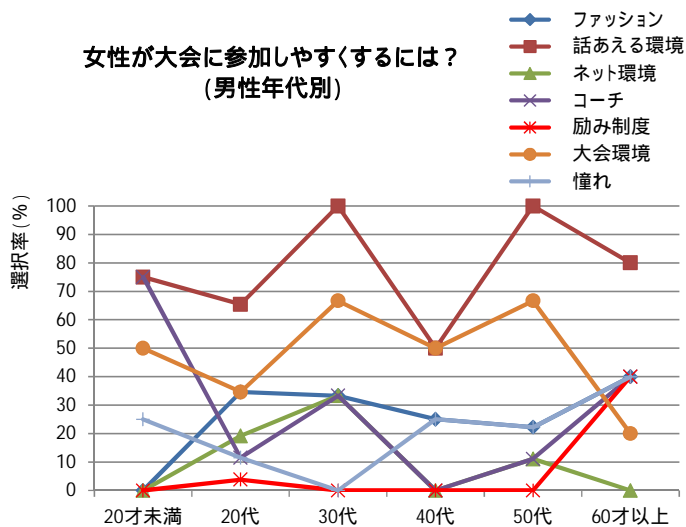


女性が大会に参加しやすくするには？(女性全体)

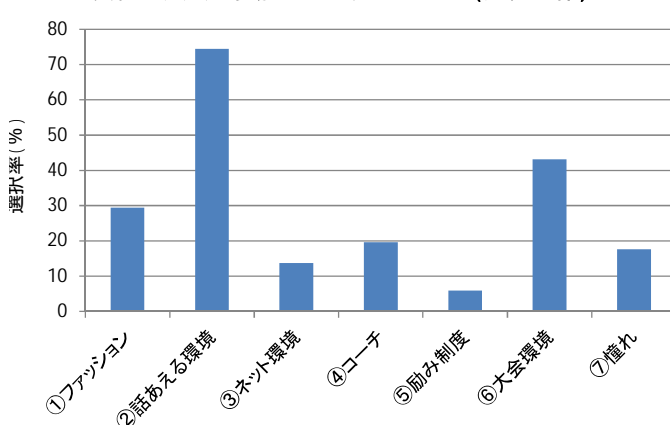


【男性】

女性が大会に参加しやすくするには？(男性年代別)



女性が大会に参加しやすくするには？(男性全体)



(注)

上記グラフ中の各項目のアンケート選択枝表現は以下のとおり。複数選択のため合計しても100%になりません。

「ファッション性」=ユニホームなどの女性らしいファッション性。「話しあえる環境」=友達やクラブ仲間などと話し合える環境。「ネット環境」=ツイッターやラインなど情報交換できるネット環境。「コーチ」=オリエンテーリングを教えてくれるコーチ。「励み制度」=年間ランキングなどの励みになるシステム。「大会環境」=託児所、参加賞、BGMなど参加しやすく高揚感のある大会環境。「憧れ」=目指したい憧れの女性オリエンティアの存在。

その他自由記載

【女性】

- ・日常的にオリエンテーリングのトレーニングはしづらい。健康のために走る人は走る大会にでる。(20才未満・学生・常連)
- ・傷ができるのを防ぐ競技服、特に脛脚が汚くなるのは仕方ないにしても毎回悲しい(20才未満・学生・時々)
- ・手軽なスプリント大会を開くなどのスプリント事業の強化。休日わざわざ地方に行き走る、ということに魅力を感じない人が多いように思う。新規で社会人を呼び込むには、確かに格好がダサいのはネック。(20代・フル未婚・時々)
- ・託児所を設置するのは必要である(20代・学生・常連)
- ・ベストドレッサー賞(衣裳賞)的なものを作る(20代・学生・常連)

- ・年齢だけでなく、「パパママクラス」というのも設けてもいいと思う。未就学児をもつ保護者はなかなかトレーニング時間が確保できないと考えられる。それゆえ、そのような人ばかりでクラスを設けるのも良いのではないだろうか。(20代・学生・不参加)
- ・高揚感のある大会環境というのは関係ないかもしれませんが、託児所は重要だと思います。(30代・フル未婚・時々)
- ・わからない(40代・フル子供・常連)
- ・参加しやすい会場やフィールドの設定(交通の便など含め)(40代・パート子供・常連)
- ・男性が青空で着替えるのは、学生の頃からあまり好きではありませんでした。特に年配の男性がブリーフ1枚で着替えるのは、一般的に20代そこそこの女性にはいい印象がないです。トップ選手の間では海外も経験していることですし気にしないのかもしれませんが、そういうところの配慮はあった方がいいかと思います。ちなみに以前所属していたランニングクラブでは、女性の前でパンツ1枚で着替える人はいませんでした(簡易テントなどクラブで持参)(40代・パート子供・不参加)
- ・コミュニティとしての魅力が大事。子供を巻き込めたら(子供の教育コンテンツになれば)外出しやすい。(50代・フル子供・常連)
- ・オリエンテーリングノPR(50代・フル既婚・不参加)
- ・エントリーリストが即時公開されていくと、どのクラスに誰がエントリーしているかがわかり、自分も同じクラスにエントリーしようかなーという気になるときもあるかも。(50代・フル子供・時々)
- ・交通が不便なところで開催される大会に女性がひとりで行き、あの殺伐とした会場にひとり身を置いてまで参加するには、強い気持ちが必要。今でもそこそこの大会に参加しているのは、大会に行けば昔からの仲間がいる、走った後には地図を囲んで話ができる・・・仲間がいるからです。もちろん競技も大好きですが、コミュニケーションの場です。(50代・パート既婚・時々)
- ・近くで手軽に参加できる大会(60才以上・フル既婚・常連)

【男性】

- ・あらゆる方向性での"楽しさ"の提供(20代・フル未婚・時々)
- ・海外で行われているHDRクラス(親と小学校低学年以下の子どもと一緒に参加できるクラス、テープ誘導あり)の設置、託児所として、狭い範囲でシールを集める方式のミニミニフリーポイントの設置(150cmくらいの間隔で10個ほどフラッグを設置する)(30代・フル未婚・常連)
- ・ポイントの代わりにスイーツ探しなど、宝探しの要素を取り入れたら、子供、家族で参加できて女性も参加しやすいのでは。(40代・フル子供・常連)
- ・ちょうど、いい感じにワイルドなコースセッティング。トレイルランナーに転身した元オリエンティアなどに聞いてみるとよいのでは?(50代・フル子供・常連)
- ・更衣所、トイレなど(60才以上・無職既婚・時々)

・その他自由意見（問7）

【女性】

年齢	職業	配偶者	子供	大会頻度	大会参加頻度 その他	自由意見
20才未満	学生			時々		
	学生			時々		今は女子が少ないから更衣室やトイレも回っているけれど、増えたらかなり大変になりそうです...長年の経験者さんとの悩み相談、女子会したい
	学生			時々	海外にも行ったことが3回あります。	
	学生			常連		
	学生			常連		
	学生			常連		
20代	学生			時々		学生側としては問題がないかと。ただ、子育てをしていると子供が安心していられる環境や(寒くないなど、いくら厚着をしても乳幼児が真冬に何時間も外にいるのは忍びない。)友達といった気の置けない人がいると行きやすそうだと思います。
	学生			時々		1番重要なのは一緒に切磋琢磨できる女性オリエンティアの存在だと思います。個人的には、大学を卒業しても一緒にオリエンティングができる人がいれば続けると思います。大学からの知り合いがいなくても、社会人女性オリエンティアが沢山いれば続けるだろうと思います。
	学生			時々		
	フル			時々		
	学生			時々		主観的な意見ですが、以前は大会に多く見られた託児所が最近ではあまり見なくなったように思われます。子連れの方が気軽に参加できる環境があれば良いと思います。
	学生			時々		
	学生			時々		
	学生			時々		
	学生			時々		他のスポーツに比べて怪我をしやすいこと(傷跡がエグイ)後は獣等との遭遇が(本人は良いけど周りに)心配される。学生の場合は親に止められる。(親からすれば)子供だけの長距離遠征はかなり渋られる。学生として自分の意見しか述べられなかったが、やはり周りの理解が必要だと思われる。
	フル	既婚		時々		車を持っていない人の場合、わざわざ同乗させてもらえないかをお願いしてまで大会会場に行かなくてはいけないため、また、会場に友達がいらないのは寂しい。
	学生			常連		
	学生			常連	月8回	
	学生			常連	月2-3回	
	学生			常連		
	学生			常連		
	学生			常連	週に1回	1つ1つの大会がお祭りのようなお遊び要素を入れる、運営大変だけど。
	フル			常連		
	学生			不参加		
学生			不参加			
フル	既婚		不参加	年数回、運営に参加、たまに大会参加		
学生			不参加			
フル			不参加		就職するとむずかしい。第一線で続けていきたいでも色んな面を犠牲する大きな覚悟が必要な状況。せっかく学生から競技をはじめて、競技の魅力を感じ、もっと速くなりたい、仲間たちと楽しくやりつづけたいと思って続けられずやめていく。もったいないし、本人はいちばんくやしい	
無職	既婚	子供	その他	昨年に出産したため、ここ1年は参加してません。それまでは2~4日/月参加していました。	出産を通して、出産後の身体の変化は自分でも驚くくらい著しい。以前のように走れるようになるには出産後、1年はかかると思う。その1年間トレーニングに費やそうと思う女性は、よっぽどオリエンティングが好きな人くらいだと思う(逆に考えると、その位筋肉を戻さないと競技が楽しめないのかもしれない)。また、まだ参加しやすいパークOも地域によっては開催が少なかったりと参加者が減る要因でもあるかも。	
学生			その他	月2回程。シーズンに寄るが、毎週末参加する月もある。		
30代	フル			時々		女性は男性に比べ、ライフイベント(問4のような)があるとオリエンを辞めてしまう人が多い気がします。一緒に大会に参加する仲間がいれば、女性もオリエンに参加しやすいのかな、と思います。
	フル			常連		

【女性つづき】

40代	フル			時々	季節のいいときのローカル大会を軸に、リレーも楽しんでいます。	
	フル	既婚	子供	常連		
	パート	既婚	子供	常連	トレイルラン＆ロゲイニングの大会に年に数回参加	・マラソンやトレランのように女性のみ対象の大会があってもいいと思う。フィールドや協賛なども女性向けに考慮。・特に女性は出産して競技として取り組めない時期に、小さい子供がいてもお散歩感覚で参加できるようなミニオリエンテーリングのイベントがもっと多くの大会であるといいと思う(小学生以上を対象にしたものが多いので)。・競技経験者ではない女性への普及を目指すというところでは、情報が少ないと思うので、ツイッターやライン以前の、HPやFBなど多くの人が見やすい場所への情報を増やすべきだと思う(たとえばトレイルランやロゲイニング情報を掲載している雑誌やサイトなどに、同じ山をフィールドとした競技なので、もっとオリエンテーリングの情報を提供してもいいと思う)。・女性にかぎったことではないが、地図読みの講習会やロゲイニングイベントは盛況だと感じるの、そこへの参加者をオリエンテーリングにも引き込めればと思う(地図読み講習やロゲイニングの大会で、オリエンテーリングの大会のチラシを配るとか)。・トレイルランやロゲイニングの大会のように、間口を広く、初心者の方人などを気軽に誘えるような、だれもが気軽に参加しやすい雰囲気があるといいと思う(実際に初心者クラスはあっても、初心者の知り合いなどを誘いにくい雰囲気があるように感じる)
	パート	既婚	子供	不参加		オリエンテーリングよりトレランやロゲイニングの方が人気が出てきて、なぜそうになっているのかを考えた時に、手本してみてもよいのではないかと思います。オリエンテーリングは、内輪盛り上がり大きいような気がするの、初めての人にとって敷居が高く感じるのと、トレランやロゲイニングが地域を大事にしているのと比べて、オリエンテーリングはあくまで地域はフィールドでしかないという意識、会場やまちを楽しむといった要素が少ないので、大会に出ておしまい！と完結しているように思います。
	フル	既婚	子供	不参加		
50代	フル	既婚	子供	時々	子供につきあわされて、引っ張り出されることもあります。	元々人数が少ない中、大学卒業を機会に競技をやめる人が多いですよ。それは、仲間が好きだったのであって、競技そのものにはそんなに魅力がなかったということです。女性に好まれる競技ではないことは事実です。社会に出たり、子供を持っても続ける人は競技が好きの人。でも、家庭環境は、女性がフルタイムで堂々と働くことを諸手を挙げて歓迎しない社会構造と同じです。といってしまうと日本の社会が悪いということになってしまいますね(笑)。自分がこの歳になって思うこと。女性には異なるライフタイムステージが沢山あって、私は今、更年期の無気力期にいます。環境があってもやる気がないのです。それを乗り越えるまでぐずぐずする女性が多いと思います。だからWSやWVは激減するのだと思います。
	パート	既婚		時々	クラブでの大会運営、練習会など	女性シニア層の参加者があまりにも少なく、レースとしての魅力を感じられない。大会によっては、まったく魅力を感じられないコースが提供されることもある。シニアエリートクラスを望みます。最近、スプリントなどで男女混合のクラスがありますが、同じコースを提供されることはかまわないのですが、女性のみ成績も出していきたいものです。男性の中に埋もれての成績では、いくら女性で上位をとったところで、達成感が得られません。
	フル	既婚		時々		
	パート	既婚		時々		
	フル		子供	常連		このような試みをする自体が素晴らしいと思います。「女性」というより、せっかく大学で始めたオリエンテーリングをどう生涯スポーツに結びつけるのか、そのくみが必要。大学のOB・OG会に期待するところも大きいです。大学(OB/OGがメイン)対抗大会なんて面白いかも。
	パート	既婚		常連		
	フル	既婚		不参加		女性だけでなく小中学校で取り組める環境作り野外活動への協力
	フル	既婚		その他	大会運営	自分達の同年代のオリエンティアや後輩、子どもの大学クラブを見ていても、大学3年生の夏までで終わりという感じがする。残るのは一握り。ただ、残った者は、二世三世のオリエンティアを育てているので、これもありがた、と思う。
60才以上	フル	既婚		常連		
	無職	既婚		不参加		

(注)・男女それぞれ年齢層別に並べました。

・大会参加頻度の「常連」「時々」はアンケート設問ではそれぞれ「年6回程度以上」「年数回程度」です。

各年齢層で、「時々」「常連」「不参加」「その他」の順番に並べ替えてあります。

・職業の「フル」はフルタイム、「パート」はパートタイムです。

・「子供」は、未成年の子供の有無です。

【男性】

年齢	職業	配偶者	子供	大会頻度	大会参加頻度 その他	自由意見	
20才 未満	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
20代	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	学生			時々			
	フル			時々			トイレ以外の更衣所が無い大会が多いことについて、新人女子に聞いたところ気にしている人がいました。女性ならではの、視点だと思えます。本当はパウダールームなどが用意できれば良いのですが...!
	無職			時々			
学生			時々				
学生			時々				
学生			時々				
フル			時々				
学生			時々				
フル			時々				
学生			時々				
学生			時々				
学生			時々				
学生			時々				
フル			時々			大学から始める人が多いと思いますが、そもそも入る時に魅力がうまく伝えられていないことと、興味が沸きにくいということがあると思います。また、しっかり競技をするには体力的にもハードで、山の中では身体に生傷をつくることにもなるので、若い女性には敬遠される傾向にあるのではないのでしょうか。	
学生			常連				
学生			常連				
学生			不参加				
30代	フル	既婚	子供	時々			
	フル	既婚	子供	常連			
	フル			常連		女子は男子に比して単独行動をする方は非常に少ないと感じます(小学生の頃から"仲良しグループ"を作るのは女子だなという印象もあり)。独身の場合はもちろん、結婚してお子さんができてからも、女子の仲間が近くにいる(あるいは会員がクラブにいて)、普段から一緒に走るなど活動していることが大切なのかなと考えています。大学に女子がそこそこいるのは、同学年あるいは先輩にも女子がいるからです。先輩に女子がいないと、なかなか新歓でも女子は入りにくいと聞きます。女子が先輩や同期にいれば不安は減ります。大会のあり方についても、海外では親子向けのHDRクラスや、託児所としてヨチヨチ歩きの子でもできるオリエンテーリングが行われたりしています。まったくのビギナーの子ども向けには「M/W10L」という、テープ誘導のある低年齢クラスもあります。日本もグループクラス(フィットネス)はもう廃止して(あるいはマップウォーキングなど名前を変えて)、これらの方法を導入すべきだと私は考えています。そうすればお子さんが3歳くらいになれば、家族で大会に行っておリエンテーリングを楽しむことが出来ます。この「女性問題」は多世代にわたり多くのオリエンティアがいらっしゃる愛知県さんならではの問題提起だと大変関心いたしました(我々の新潟などは性別関係なく危機的状況なので)。ますますのご発展をお祈り申し上げます。	
	フル			常連			

【男性つづき】

40代	フル		子供	時々		
	フル	既婚		時々		
	フル	既婚	子供	常連		共働きが当たり前になり、仕事と家庭の両立だけでも大変なのに、それに加えて趣味までとなると相当な困難がある。
50代	フル	既婚	子供	常連	モリコロパークのイベント等に参加しました。	今ボーイスカウトの子供たちを地図読みをさせるためにオリエンテーリングに参加させようと思っています。子供の頃からそういった参加しやすい環境を作ることによって今後増えるのではないのでしょうか。ボーイスカウトのトレーニングではコンパス俳句と言うトレーニングがあります。ボーイスカウトの団体とコラボして取り組みを広げたらどうでしょうか
	フル	既婚	子供	時々		やはり、女生徒はかぎりませんが、一緒に活動できる「仲間」の存在が大きいと思います。常に声を掛け合い、大会に参加できる状態を創り出さないとイケませんね。
	フル	既婚		時々		会場に駐車場があるかどうかで、子連れで参加するかどうかが変わると思います。
	フル	既婚		時々		女性に限ったことではないですが、Bクラスの充実ある程度面白くて、ブランクがあっても完走できるレベルのコースがあると誘いやすいのかなと思います。
	フル	既婚		時々	基本的に参加可能な大会にはほとんど参加している。	地域クラブ中心になって、女性が気軽に楽しくオリエンテーリング活動に参加できる環境を作っていくことが必要ではないでしょうか。
	フル	既婚	子供	時々		難しいコースはやめて、簡単なコースで気持ちよく走り切れるようにすれば、ほんのわずかに女性オリエンティア増加に貢献できるのではないのでしょうか？
	フル	既婚		常連		
	フル	既婚	子供	常連	所属クラブ主催大会運営、ロゲイニング運営多数。	
	フル	既婚		常連		
60才以上	フル	既婚	子供	常連	パーク0が多め	
	無職	既婚		時々	膝を痛めて走れなくなってからは、平坦な公園でのスプリントなどは避けています。	
	無職	既婚		時々		ロゲインは女性の参加が半分を占めるほど人気がある。なぜだろうか？。チーム参加のため身近に大会に参加する仲間や家族がいるからだと思う。身近に活性化された地域と職場クラブがあれば仲間が自然に増えて行くのではないか。
	パート	既婚		時々		
	フル	既婚		常連	時間的に余裕なし、体力停滞～停止～後退中 出来るだけ参加したい	他人でなく本人の気持ちの持ちようではないのかなあ。
フル	既婚		不参加		家族で参加できる機会を多くすると良いのでは？	

(注)・男女それぞれ年齢層別に並べました。

・大会参加頻度の「常連」「時々」はアンケート設問ではそれぞれ「年6回程度以上」「年数回程度」です。

各年齢層で、「時々」「常連」「不参加」「その他」の順番に並べ替えてあります。

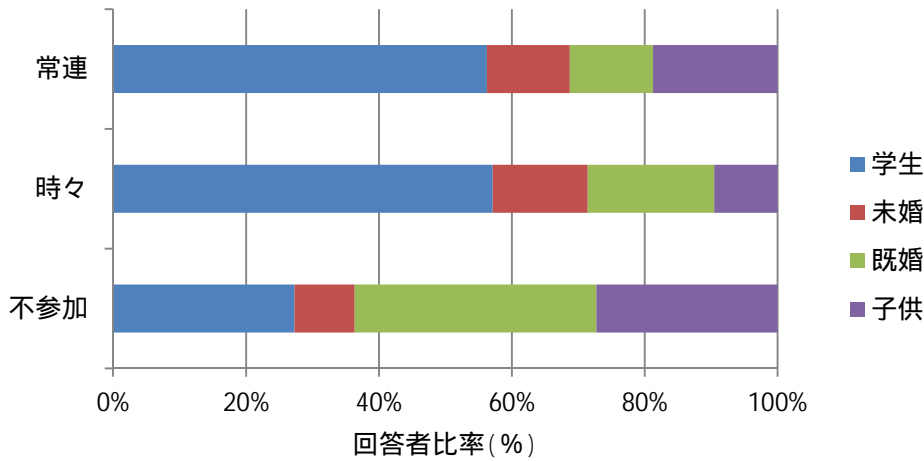
・職業の「フル」はフルタイム、「パート」はパートタイムです。

・「子供」は、未成年の子供の有無です。

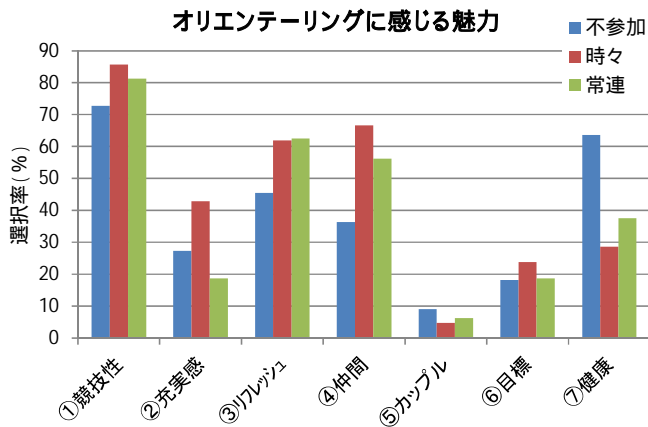
・大会参加頻度別集計結果

女性回答者については、大会参加頻度（常連、時々、不参加）について集計をしました。

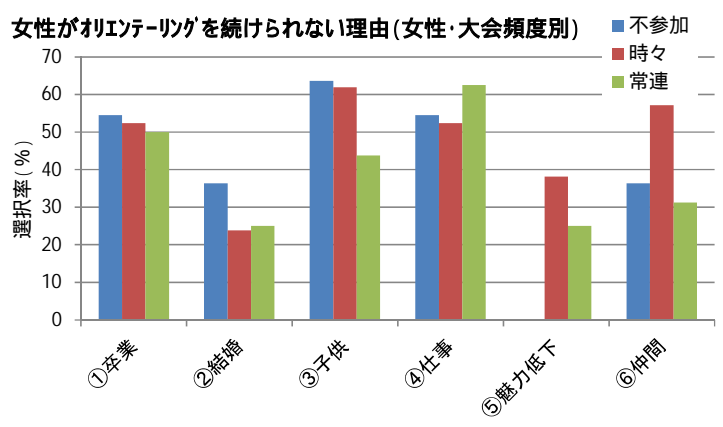
ライフスタイルと大会頻度(女性)



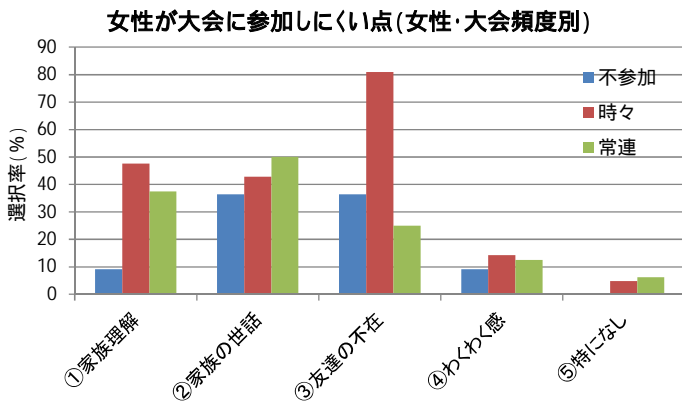
設問 3



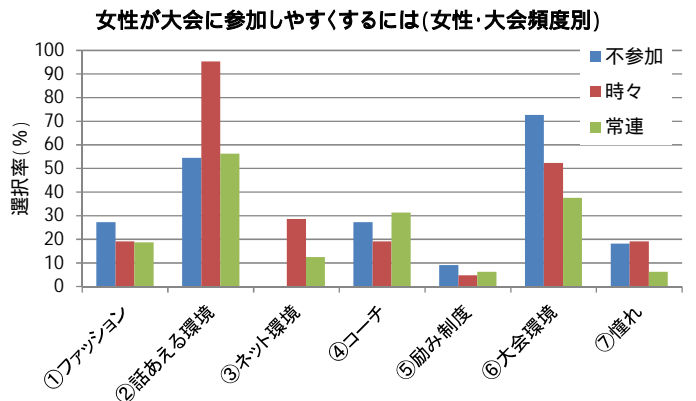
設問 4



設問 5



設問 6



女性とオリエンテーリングに関するアンケート用紙

設問		回答欄	はどれかひとつにチェック	は複数にチェック可能			
問1 貴方自身 について お答えく ださい。 (必須回答)	Q2性別	男性	女性				
	Q2年齢層	20才未満	20才代	30才代	40才代	50才代	60才以上
	Q3居住地	愛知県内	愛知県外				
	Q4職業	フルタイム	パートタイム	学生	無職		
	Q5 家族構成	配偶者あり 配偶者なし	未成年の子供あり 未成年の子供なし	その他の家族(親と同居など)を記入。			
	Q6 大会参加頻度	年数回程度	年6回程度以上	今は参加していない その他自由に記入			
問2 あなたがオリエンテーリングを 始めたきっかけは何ですか？ <複数選択可>	大学のクラブへ入部したので。 面白そうなスポーツと思ったので。 小さい頃(小中学生のころ)やったことがあったので。 その他あればご記入ください。(自由記入)		友達に誘われたので。 カッコイイスポーツと思ったので。				
問3 あなたが、オリエンテーリングに 感じている魅力は何ですか？ <複数選択可>	オリエンテーリングの競技としての面白さ。 苦しいレースを終えた後に充実感を感じるから。 自然の中に身を置くレフレッシュできる感じがするから。 友達あるいはクラブ仲間と一緒にわいわいできるから。 夫婦あるいはカップルで参加できるから。 個人あるいはクラブとしての目標を達成したいから。 体力増強、健康づくりできるから。 その他あればご記入ください。(自由記入)				特になし。		
問4 女性がオリエンテーリング を続けられないとしたらどんな場 合だと思いますか？あるいは、 現在オリエンテーリングから遠 ざかってしまった理由はなんで ですか？ <複数選択可>	卒業して就職したら。 子供ができれば。 オリエンテーリングそのものに魅力を感じなくなったら。 一緒にやれる仲間、家族がいなくなったら。 その他あればご記入ください。(自由記入)		結婚したら。 仕事が忙しくなったら。				
問5 現在のオリエンテーリング大会 に女性が参加しにくいと思える点 は何ですか？ <複数選択可>	家族の理解が得られず 気軽に出かけられない。 行きたくても、子供や配偶者、親などの世話などで疲れている。 一緒に行ってもらえる友達、仲間、異性などがない。 大会へ行っても殺風景でワクワクしない。 その他あればご記入ください。(自由記入)				特になし。		
問6 女性がオリエンテーリング大会 に参加したりトレーニングをしや すくなるためには何が重要だと 思いますか？ <複数選択可>	ユニホームなどの女性らしいファッション性。 友達やクラブ仲間などと話し合える環境。 ツイッター やラインなど情報交換できるネット環境。 オリエンテーリングを教えてくれるコーチ。 年間ランキングなどの励みになるシステム。 託児所、参加賞、BGMなど参加しやすく高揚感のある大会環境。 目指したい憧れの女性オリエンティアの存在。 その他あればご記入ください。(自由記入)						
問7 女性を取り巻くオリエン テーリングの状況や改善点につ いて、ご意見あればお聞かせく ださい。	(自由記入)						

女性オリエンテーリング活性化調査活動

座談会報告書

日時：2015年3月22日(日) 11:30 - 13:30

場所：札幌かに本家名古屋駅前店

参加者：川島実紗さん、石田美代子さん、大野真澄さん、小野節子さん、伊藤沙恵さん
横井里美さん、藪田 能登美さん、鳥羽都子さん、落合志保子さん、安齋 愛さん

コーディネーター：大里真理子 JOA 理事

書記：都築発帆(愛知県協会理事)

(1) 座談会のねらいと進行

座談会に先立ち実施した女性のオリエンテーリング活動に関するアンケート調査結果をもとに、現状や課題、改善点などの生の声を伺う機会として実施。特に、女性がオリエンテーリング大会へ出なくなっていく要因や、大学卒業後に足が遠のいていく理由がどこにあるかを話題の中心とし、基本的にフリーディスカッション形式で進行した。

(2) 座談会発言要旨

以下に、出た意見の要旨を話題別に記載する。

オリエンテーリングから足が遠のいた理由

(鳥羽) 怪我をしたから。オリエンテーリング以上に楽しいことを発見したから。オリエンテーリングが速い人と遅い人の中間層がない。友達を作るためにもう一度始めた。

(大野) 連れてってもらえない。 子供が一人で行けるようになったから。

(不明) 集合時間が早すぎる。

どうしてオリエンテーリングをやめてしまうのか

(横井) 学生の内は少し危ないこともできるけれど、社会人になると厳しい。トレランに流れてしまうのでは？

(安齋) 県外に出るとできる環境がない。

(藪田) クラブチームに限られる。団体で行くことに慣れていると一人で参加しづらい。

(大里) 30代で戻ってきても誰もいない。

(川島) 10年20年続けられるスポーツという認識がない。

(落合) 女性は時間に追われているのに競技が終わったらすぐに帰れない。

(不明) オリエンテーリングをするのが怖くなる。インカレが最終目標。

(伊藤) 車を持っていないと厳しい。

(鳥羽) ニュース性がない。

(伊藤) 費用がかさむ。マラソンに比べると気軽さが足りない。

(不明) 学生の頃は楽しみでやっていた。大人になるとかぶれるし入りたくない。

女性が参加するには？

- (大里) 見せる(魅せる)オリエンテーリングにしていく。
(鳥羽) オリエンテーリングを見るのはおもしろくない。
(石田) 歩く大会から入れば迷う怖さは防げるのではないか。
(鳥羽) 女性だけのクラブチームがあるとよい。(賛同者あり)
(川島) クラブに入るメリットは何か？
(大里) リレーに出られる。情報が入ってくる。仲間が増える。
(川島) 同じクラスを走っている確信があると会場で友達が作りやすい。
(薮田) ペアでも出走OKにすればいい。
(安斎) ロゲイニングを観光スポーツにする。
(薮田) トレランの人たちに地図読みを練習したいならオリエンテーリングという流れを作る。
(落合) 託児スペースくらいあってもいいかも。
(大里) 子供用のプログラムがあるといい。
(川島) 山に入ると将来オリエンテーリングに興味を持ってくれるかも。
(安斎) 観光と絡めていくのは？マイクロバスツアーがあったらいいのに。

かつてのオリエンティアをどうやって取り戻すか

- (落合) 大学を卒業して2年くらいでやめてしまう女性が多いのはなぜ？
(川島) 知っている後輩がいなくなるため会場でしゃべる人がいない。
(大里) 環境、コミュニティーを作る。
(大野) A(上級)とB(中級)の差を明確に記述しておく。
(鳥羽) 長くてゆっくり楽しめるコースにする。

嫌な思いをしたこと

- (石田) 女性用の更衣室が無い時。
(安斎) 男の人が着替えを目の前でするのは・・・
(大野) ロッカーとお風呂をつけてほしい。

(3) 今後への提言

アンケート結果ならびに座談会での意見を課題ごとに考察し、女性のオリエンテーリング活動を阻害している要因をいくつか仮説とし、その解決策と思われるものを以下にまとめる。

本項は、コーディネーター大里氏の意見を参考に、県協会にてまとめたものである。

(文責、新帯 亮)

対象者の分析

座談会、アンケートを通じて、オリエンテーリングに関わる女性には大きく2タイプあるのではないかと推測される。ひとつは、大学時代あるいは一時期、上級クラスのオリエンテーリングを目指して活動していた女性、もうひとつは、オリエンテーリングをひとつの趣味あるいは交流の場として楽しみたいという女性である。それぞれにオリエンテーリングから遠ざかる理由があり、異なる傾向があるように思われた。

ここでは便宜上、前者を A タイプ：競技志向、後者を B タイプ：交流志向とし、両極端でまとめる試みをする。むろん、この 2 つのタイプは明確に線引きが存在するわけではないが、この 2 タイプを一緒に考えると相矛盾する結論になる可能性があり、あえてここでは分けて考察することとした。

オリエンテーリングから遠ざかる要因

A タイプ：競技志向の場合、大学ではインカレなど明確な目標に向かってだったが、卒業すると、明確な目標、言い換えればオリエンテーリングの競技的な魅力に物足りなさを感じていると思われる。アンケートの問 3（オリエンテーリングに感じている魅力は何ですか？）では、男性、女性ともに、競技性が 1 位であり、逆に問 4（女性がオリエンテーリングを続けられないとしたらどんな場合ですか？）では「魅力低下」は下位にとどまっている。これらからオリエンテーリングを続けたいと思わせる最大の要因は競技性の魅力にあると思われる。

その上で、オリエンテーリングから遠ざかってしまう要因は 3 つほどあると考えられる。

1 つ目は、一度やめてしまうと競技力や体力への自信がなくなり、復帰に自信がないという点である。そのような自由意見も見られた。

2 つ目は、かつて上級クラスに参加していた女性は、中級クラスのコースでは競技性に満足を感じることができないが、かといって、本格的な大会、特に遠くで開催される大会の上級コースに出場するほどのきっかけがつかめていないと思える点である。そのきっかけはやはり仲間の存在が重要なウェイトを占めているように思われる。女性が一人で大会へ遠征して、会場でひとり着替えて参加して帰宅する、というのは、男性ではよくあるが、やはり女性となるとかなり厳しいものがあり、世界を目指すような Top 選手でなければ考えにくい。

3 つ目は、オリエンテーリングではなく、トレランやロゲインなど他のスポーツにより魅力を感じるという点である。基本的に 1 人で競技するオリエンテーリングに対し、これらスポーツは複数で一緒に参加することができるため、仲間を誘いやすいという意見もある。また、オリエンテーリングと比べ「汚さ」がないので、ランナーなど他のスポーツをする女性を誘いやすいとも思われる。

B タイプ：交流志向の場合、大学の卒業などの交際環境の変化、さらには家庭環境の変化、特に子供や配偶者の存在が大きいと思われる。大会などへ参加しても、交流できる仲間がいなければ、オリエンテーリングそのものは楽しめても、参加しようという駆動力にはなりえない。大学時代は部活へいけば仲間がいるのに対し、大会では行ってみないというかどうか分からない。かつてのオリエンテーリング仲間を誘うというのも、相手の事情や感情を察することができるだけに誘いにくいという事情もあるようである。

加えて、既婚あるいは子供がいる女性では、子供の行事が優先してしまうし、配偶者の理解が得られなければ、やはりひとり大会へ参加するのはかなり難しいと思わせる自由意見が多い。アンケートの問 3 の自由意見では、男性は「オリエンテーリングとともに成長してきたから」とか「いろいろな意味での勉強」といった、自己実現あるいは自己成長のひとつとしてとらえている側面があるのに対し、子供をもつ女性では、まず子供の成長が優先され、自分の趣味のため子供を連れて大会へ参加する、というのには抵抗感があると思われる。例えば女性同士でランチに行くような気軽さで参加できる大会はなく、大なり小なり家族の犠牲あるいは理解がなければ大会

へ参加できない。

上記以外にも、参加しにくくしている要因として、以下のようなものがあると思われる。

- ・時間確保の問題：家族の世話などがあるのに、会場までが遠かったり、交通手段がなかったり、競技開始まで、あるいは終了後の時間が長い。
- ・会場施設の問題：男性の更衣所が完備しておらず、女性の面前で着替えるのはマラソン大会などにはなく、女性が嫌悪感をもつ。
また、託児所がなく、野外の寒い中小さな子供を連れて行くことができない。
化粧直し、シャワーなど「汚さ」を解消できない。

女性が参加しやすくするための提案

上記を踏まえ、問題点を改善するのに有効と思われる方策案をいくつか示す。

- ・魅力を伝える
オリエンテーリングを1人で行わず公式に複数で参加するクラス(ペアクラス)を設定する。これにより、もう1人誘うきっかけになるし、また、トレイルランナーなども誘いやすい。コースはねらいにより異なるが、短くて上級コース、長くて中級コースなどが考えられるが、要項などで分かりやすく明示することが必要。
- ・仲間づくり
最も理想的なのは女性クラブを作ることであるが、それに代わるものとして、メーリングリストやSNSを活用したオンラインでの交流の場づくり。
また大会会場などのオフサイトでは、表彰式までの間に同一コースを走った女性同志が会話できる仕掛け。(スタートリストの早期公開、会場内で集まれる場所の提供など)
- ・家族参加
そもそも、子供の成長の場であるという提案。子供だけで参加するミニ OL などを併設。地図読みなどのプログラムを行い子供の成育のひとつのプログラムとしての提案。親とは切り離して行うことが必要。
上記ペアクラスを活用し、夫婦参加促進による配偶者の巻き込みを狙う。
- ・会場づくり
居住地に近いテレインで気軽に参加できる大会の増加。
子連れでも参加しやすい受付時間、終了時間の設定。
男性更衣所の確保および男性へのマナーの徹底。
託児所の配置。(最初は利用がなくても継続して設けることが大切)
シャワー、パウダールームなどの配置。
- ・情報発信
各コースの難易度や「汚れ」度合などをよりわかりやすく伝える要項の書き方。
会場の施設の有無の明示(例えば、「男性更衣所あり」などの統一マーク制定)、
女性活性化活動を行っているという広報活動。

(4) 今後の進め方

これら提案の中にはむろん効果がないものや費用対効果が低いものもありうる。これらを今後も継続して議論し、試行し、それを情報発信していくことが今後の課題である。

座談会にご参加の皆様



(薮田さんは写真撮影前に所用で帰られましたので撮影しておりせん。ご了承ください)